

言葉と人権



最近、子供の間で交わされる言葉を聞いていて、どきっとすることがあります。相手を馬鹿にしたり、誹謗中傷したりするような言葉を平気で口にしています。言葉を発した本人は、軽い気持ちで言ったのかもしれませんが、その言葉を発せられた相手はどのような気持ちになるのでしょうか。たぶん、不快な気持ちになるでしょうね。

インターネットやスマートフォンの普及によって、ネット上でもそういった不快な言葉が見受けられるようになりました。匿名の個人として情報を発信できるため、むしろ現実世界よりも過激でより悪質な言葉が氾濫しています。

高校生の9割以上が携帯電話を所持するなか、大多数の生徒は日常的にメールやSNSを使用しています。友達の間でのたわいもない会話なら問題ありませんが、他者を誹謗中傷したり、不適切な画像を掲載したりする例も見受けられます。ネット上に投稿された言葉や画像は多数の人の目に触れますし、拡散する可能性もあります。「ばれないから大丈夫」といった軽い気持ちで投稿すると、あとで後悔することにもなりかねません。

言葉は、使い方によって人の心をいやしたり、勇気づけたりします。しかし、使い方を間違えれば相手を傷つけてしまうこともあります。では、そうならないためにどうすればよいのでしょうか。よく言われることですが、相手の立場に立って言葉を発することが大切です。「この言葉を発したら相手はどう思うかな」という想像力を働かせて、相手の感情を害しない言葉遣いをしましょう。